

JCI プレキャストコンクリート製品の設計と利用研究委員会

WG 4 (リサイクル材等利用 WG)

第 1 回 WG 議事録

1. 日 時：2007 年 月 24 日 15：10～17：00
2. 場 所：JCI 会議室
3. 出席者：北辻主査，田口史雄、片平 博、内田美生、松田 学、梅村靖弘、藤田康彦、
佐々木肇
4. 配布資料：資料 0 第 1 回 WG4 議事次第
資料 1 リサイクル材等利用 WG 活動計画
全体第 1 回委員会資料 1 プレキャストコンクリート製品の設計と利用研
究委員会 (JCI-TC071A)

5. 議事内容

5.1 主査挨拶

前回の全体委員会に出席できなかった委員もいるので，北辻主査より委員会の目的，WG の活動内容について説明があった。

5.2 審議内容

活動内容について

- ・プレキャストコンクリート製品 (以下，PCa 製品) は，低品質骨材，再生骨材，他産業廃棄物などを利用しやすい環境化にある。このような材料を使用する場合の問題点を把握し，適切な使用方法を提案したい。
- ・再生骨材 (M) について，寒地土木研究所田口委員より北海道支部での取り組みについて説明があった。

2002 年 4 月，2005 年 5 月，2007 年 7 月に JCI 北海道支部より報告書発行。

- ・再生骨材を対象とした簡易的な判定方法について土木研究所片平委員より説明があった。

市販の食品保存容器 (商品名：タッパ) に試験対象の再生骨材と水を入れ，冷蔵庫の冷凍室にて 16 時間，20 の水槽中で 8 h 保管しこのサイクルを 10 回 (10 日) 繰り返し，重量変化率が 10% 未満であれば合格。

原コンクリートが AE，Non-AE に係わらず評価可能。

凍結融解に対しては細骨材の品質はあまり影響していない。

- ・再生骨材 (H) も対象に加えるか？

再生骨材 (H) については特に問題がないので対象としない (北辻主査)。

寒地土木研究所では再生骨材 (H) であってもさびの発生などの問題が生じているため実験継続中。ただし，再生骨材起因ではなく融雪剤の影響が大きい。

- ・再生骨材を使用した場合，セメント起源と考えられる六価クロムの溶出が基準を超過する場合も見られるので何らかの方向性が出るとありがたい。
- ・乾燥収縮の性能照査について
 - 蒸気養生後の外気温度によってはひび割れが発生する場合がある。
 - 製品の種類，大きさで必要性を区分してはどうか？
 - 蒸気養生における問題点は WG 1 で扱ってもらい，再生骨材などを使用した場合にのみ生じる問題点について WG 4 で扱いたい。 北辻主査調整
- ・凍結融解に対する性能照査について
 - 中部以南では凍結融解の問題は少ない。
 - 地域ごとの標準配合をアンケート調査したい。
- ・強度に対する性能照査について
 - 対象とするPCa製品のコンクリートの圧縮強度は 27N/mm^2 程度，Max: 30N/mm^2 。
- ・アルカリ骨材反応（ASR）について
 - ASR で B 区分にされた骨材の取扱をどうするか？
 - 何とかしてほしいとの陳情はよくあるが，実態調査をすると出てこない。
 - 調査方法の検討が必要。
- ・その他のリサイクル材について
 - 石炭灰については非 JIS 灰を中心に検討する必要がある。
 - 委員に電力関係の方を加えてはどうか？
 - 候補：電中研山本様（梅村通信委員から），電源開発鍵本様（佐々木通信委員から）
- ・今後の予定について
 - 北辻主査が取りまとめ，役割分担については各委員にメールにて連絡
- ・他 WG への要望
 - WG2 に対して，アンケートを実施する場合，対象を建築系だけでなく土木系を追加してほしい，アンケート項目にリサイクル材についても追加してほしい。
 - 12 月くらいをめどに調整
- ・シンポジウム開催予定
 - 2008 年 2 月 29 日 日大講堂にて
 - 内容は，國府顧問の講演，一般投稿論文発表，WG 活動報告
- ・次回
 - 11 月 5 日 13:00～ 第 2 回 WG

以上